

令和元年度 静岡県美容専門学校 学校評価報告書

2.1.27

1. 教育理念・教育目標

評価基準： A 適切である B ほぼ適切である C やや不十分な点がある D 不十分な点がある

評価項目	自己評価
・教育方針、指導目標及び目指す生徒像が、明確に示されているか	A
・教育方針、指導目標及び目指す生徒像は、卒業時の到達が読みとれるものになっているか	A
・教育方針、指導目標及び目指す生徒像は、定期的に見直されているか	A
・教育方針、指導目標及び目指す生徒像は、学生に浸透しているか	B

〔現状の問題点〕

- ・教育方針等は、始業式、終業式などで意識を持たせており、生徒にその趣旨が浸透しつつある。
- ・教育方針等は、授業をはじめとする日々の教育活動で指導する必要がある。

〔改善のための方策〕

- ・入学式、始業式、終業式等の場で、保護者や生徒に繰り返し教育目標などを語っていく。
- ・日々の授業やホームルームなど、全教育活動を通じて美容師としての在り方を指導する。

〔結果検証〕

- ・「利他の精神」ほか、4つの教育方針、目指す学生像は定着しつつあり、本校受験生にも浸透している。

2. 教育活動

評価項目	自己評価
・カリキュラムは教育目標が反映されているか	A
・定期的なカリキュラムの見直しがなされているか	A
・テキストや教材は適切なものを選定しているか	A
・シラバスが作成され学生に配布されているか	A
・授業の点検・評価が適切に実施されているか	A
・国家試験や各種検定の合格率は目標を超えているか	B
・成績や出席が目標に到達しない学生に適切なフォローがなされているか	A
・進級、卒業の判定審査は適切に実施されているか	A

〔現状の問題点〕

- ・教育課程の現状と問題点を精査し、本校としての令和2年度・3年度版教育課程を検討する。
- ・コース選択制を導入して7年。授業内容を点検し、時代の流れに即した特色を出す必要がある。
- ・学生による授業評価を踏まえ、学生の授業満足度を高めるため指導方法を改善する必要がある。
- ・平成30年度卒昼間生の国家試験全員合格は達成できなかった。実技・学科とも個別指導の徹底が必要である。

〔改善のための方策〕

- ・学生技術大会の新種目導入等を踏まえ、ビューティコースの改善充実を図る。
- ・引き続き、全教員が学生からの授業評価を受け、質が高く、かつ分かる授業を行う。
- ・国家試験対策の教員チームを作り指導法の差異を解消し、弱点補強のための反復練習の徹底と自己採点を行う。
- ・成績不振者等に対する追試、補習授業等の実施を厳しく行う。

〔結果検証〕

- ・令和2年度のビューティコースに「まつエク」と「化粧品」の資格取得を加え、令和3年度に新課目「福祉美容」を設置することが決定した。
- ・本校を会場に「コース制発表会」を行い、約140名の保護者・中高生の方々に学習成果を発表することができた。
- ・昼間生、通信生とも国家試験全員合格は未達成であったが、学生への全体・個別指導は緻密さを増している。
- ・各種検定に取り組む姿勢も積極的であり、合格率も向上した。
- ・高等教育の無償化申請を通して、公開に耐え得るシラバスに改善された。

3. 学生受入れ

評価項目	自己評価
・学生募集のための広報資料の表現・内容、広報活動の方法・時期は適切か	A
・入学案内、HPには志願者が必要とする情報が掲載されているか	A
・募集要項の内容は適切か	A
・学校見学会、オープンキャンパスの時期、内容は適切か	A
・入学者選抜の時期、方針、方法は適切か	A
・志願者状況、定員充足率はどうか	A
・中途退学の原因・実状を適切に把握しているか	A

〔現状の問題点〕

- ・昼間課程は、100名の定員充足にあと一歩であった。教育活動の充実、広報活動の工夫が必要である。
- ・昼間課程は、AO入試・推薦入試・一般入試の区分で実施しているが、年々、AO入試の入学者が増えている。
- ・県内高校生が首都圏など県外の美容師養成学校に進学している現状がある。

〔改善のための方策〕

- ・高校生への説明会だけでなく、HPの充実、テレビCMなど様々な広報活動を展開する。
- ・引き続き様々な地域イベントに参加し、生徒の美容技術を生かした社会貢献活動を行う。
- ・美容業の周知と学生確保を目指して、合同進路ガイダンス、高校別進路説明会に積極的に参加する。

〔結果検証〕

- ・静岡まつり、クリスマスフェスタなど地域の様々なイベントに積極的に参加し、美容学校のPRにつながった。
- ・進路情報誌への掲載、列車内広告、映画館CM、SNSの発信など、広報の充実を図ることができた。
- ・オープンキャンパス、学校見学会等に延べ582人が来校し、高校説明会、合同ガイダンスに年間92回参加した。
- ・令和2年度入学の昼間課程は、定員100名を超える新入生を確保できた。

4. 教職員組織

評価項目	自己評価
・専任教員は設置基準を満たしているか	A
・専任教員1人あたりの担当科目時間数は適切か	B
・教職員の業務内容は明確になっているか	B
・教職員の能力、業務内容の評価を定期的実施しているか	B
・教職員の資質向上のためのシステムは適切に構築されているか	B
・職員は業務が滞りなく遂行できる人数を雇用しているか	B

〔現状の問題点〕

- ・教職員の能力評価、教員の授業力評価が十分に機能していない。
- ・教員の美容に係る技術指導力と教科指導力の向上を一層図る必要がある。

〔改善のための方策〕

- ・教職員の実績評価の一資料として、技術指導・教科指導に関する年間の自己目標を、引き続き設定していく。
- ・教員の技術力、座学指導力の向上を図り、学生の満足度を高めるため、引き続き教員間の公開授業を進めていく。
- ・美容技術の向上のため、指導体制を明確にした上で全教員による勉強会を実施していく。

〔結果検証〕

- ・教職員の業務分担表を例年以上に細分化し、それぞれの職務が一層明確になった。
- ・教員相互間の公開授業の実施回数はやや減少したが、授業改善は徐々に進んでいる。
- ・全教員が全ての美容技術を高いレベルで身に付けなければならないという共通認識は図られた。

5. 施設・設備等

評価項目	自己評価
・講義室は学習を行うのに十分な面積を有しているか	A
・実習室は実習を行うのに十分な面積を有しているか	A
・実習設備は整備されているか	A
・講義室・実習室の管理は適切に行われているか	A
・学生が自学自習できる教室を有しているか	A
・図書室は適切に整備されているか	A
・保健室は適切に整備されているか	B
・教育用機器備品は整備され活用されているか	B
・職員室の管理は適切に行われているか	A
・事務室の管理は適切に行われているか	A

[現状の問題点]

- ・施設・設備の老朽化が進んでおり、東館壁面及び屋上の防水工事が必要となった。
- ・昨年度完成した図書室の収蔵図書は増加しているが、その利活用が不十分である。

[改善のための方策]

- ・補修・交換が必要なものは、優先順位を決めて工事を行う。
- ・東館の壁面改修工事の計画・実施を進める。

[結果検証]

- ・施設・設備の破損・老朽化については、逐次対応できている。
- ・令和元年8月に、東館壁面及び屋上の防水工事を完了することができた。

6. 学生生活支援

評価項目	自己評価
・奨学金等、経済的支援は整備されているか	A
・学生相談、カウンセリングに関する体制が整備・機能しているか	B
・各学校行事について、適切な事後反省を行っているか	B
・防犯・防災訓練の実施等、不法侵入・災害に対する整備は万全か	A
・進路活動に関する支援が整備され、機能しているか	A
・新たな就職先の求人開拓をしているか	A

[現状の問題点]

- ・文科省の新奨学金制度(高等教育の無償化)について、教職員の協力で各種申請書類を作成する。
- ・防災訓練を年2回実施しているが、マンネリ化の傾向がある、避難地への移動・人員把握レベルに止まっている。
- ・本校就職ガイダンスに参加する美容室の精査等、求人開拓のさらなる工夫が必要である。

[改善のための方策]

- ・地震等災害時の被害予測を調査し、通学地区ごとに危険個所の把握を行う。
- ・校内の防災用品の整備・点検を進めるとともに、効果的な防災訓練を実施する。
- ・県内外美容室の勤務条件とその実態を把握し、生徒に安心して推薦できる就職先を精査する。

[結果検証]

- ・高等教育の無償化について、県への適切な申請手続きにより、対象校となることができた。
- ・防災用品の説明、地区別人員把握などに止まり、新たな防災訓練は実施できなかった。
- ・2年生の進路指導の一環として、信用保証協会による美容室開業に伴う資金調達の講座を開いた。
- ・社会保険加入その他の勤務条件を重視する本校の姿勢は、美容室側にも伝わりつつある。
- ・年間5回、延べ90社(県内61社、県外29社)の美容サロンを招き、効果的な就職ガイダンスを実施することができた。

7. 管理・運営

評価項目	自己評価
・理事会・評議員会は適時適切に開催され、機能しているか	A
・理事会、評議員会の議事録は適切に作成、管理されているか	A
・就業規則などの諸規程は適切に整備されているか	A
・就業規則などの諸規程・学則等が定期的に見直されているか	A
・組織間の連携は適切に図られているか	B
・消防計画、学校安全計画等は適切に整備されているか	A
・個人情報保護法を遵守しているか	A
・学校の財務情報を公開する体制が整備されているか	A

[現状の問題点]

- ・教職員の能力や実績を鑑みて、仕事量の調整や再配分をする必要がある。
- ・組織間の連携は進みつつあるが、意思統一の面で不十分な点がある。

[改善のための方策]

- ・学校の財務情報をホームページで公開し、多くの人に見てもらえるようにする。
- ・教務が中心となり、学年部・通信部との意見交換、打合せを繰り返し行った。

[結果検証]

- ・教職員の能力と実績の評価は行うことはできたが、仕事量の再配分にまでは至らなかった。
- ・財務状況等を本校ホームページで公開し、多くの閲覧者に見てもらうことができた。
- ・意見交換を繰り返し行った結果、各学年部及び通信部の相互理解が進み、意思の統一ができるようになった。